

『獨協大学外国語教育研究所紀要』

第 13 号の刊行によせて

外国語教育研究所所長

岡 田 圭 子

今年も獨協大学外国語教育研究所紀要をお届けできることをうれしく思います。紀要の発行は研究所の重要な活動のひとつであり、関係のみなさまのご努力により途切れることなく発行できていることに、あらためてお礼申し上げます。

2024 年度の活動を振り返ると、6 月に東京大学のトム・ガリー先生をお招きして、「AI 時代の外国語教育一言語と人間はどう変わるか」という講演会を実施できたことは大きな喜びでした。ガリー先生は 2020 年に本学外国語研究科とドイツ語学科の主催によるシンポジウムでご講演いただいて以来、2 回目の本学でのご登壇となりました。初回はコロナの影響で学内関係者のみが対象でしたが、今回はハイブリッド方式で公開実施をすることができました。本学会場に多くの方が足を運んでくださっただけでなく、日本内外から多くのオンライン参加をいただきました。日本における生成 AI 活用の最先端にいらっしゃるガリー先生は、大規模言語モデルとしての AI の歴史を振り返り、ChatGPT がもたらした衝撃、そして教育への影響を論じられました。さらに、外国語学習を促進するための AI の利用、教員の立場と役割について踏み込んだ議論をされました。その模様は、本号の講演抄録に生き生きと再現されております。ご講演のみならず抄録のご執筆まで快くお引き受けくださったガリー先生に深く感謝いたします。言語教師が今後どのようにこの課題と向かい合っていくか、議論の大きなきっかけを頂いたと思います。

また、本号には 5 本の論文と 1 本の研究ノートが収録されておりますが、言語教育の幅広い研究分野を背景とした投稿であり、いずれも質の高いものだと考えております。投稿くださった先生方にお礼申し上げますと同時に、これらの論文を査読してくださった外部査読委員の先生方に深く感謝申し上げます。外国語教育研究所紀要は創刊号以来、すべて外部の研究者の先生方に査読をお願いしており、これが本研究所の紀要の質を高める要因のひとつであると自負しております。

最後になりましたが、この紀要の納品を見届けてご退職される市原ひかり特任助手に心からの謝意を表します。市原さんはフランス語がご専門ですが、ドイツ語、英語にも堪能であり、さらに日本舞踊坂東流の師範として後進の育成にもあたるといふ、豊かな才能を持った方です。研究所では、先を見据えたうえで今何をすべきかを考えてくださり、細やかな心配りと緻密な仕事ぶりを見せてくださいました。歴代研究所長・主任研究員を代表して心からのお礼を申し述べるとともに、今後も続くであろう研究者と舞踊家との dual identity が、市原さんにますます豊かな実りをもたらすことを祈ってやみません。市原さんが大切にサポートしてくださった本研究所を、これからも豊穡な研究と議論の場としていけるよう、研究員のみなさまとともに努力を続ける所存です。

